

Marry-go-round

亡びと救ひの

蓮伽をつけて おれは

脱出する、自分の

出発から

空廻りのレコードにひきづられ

自分を見失はぬやうに

あてのない不安にしがみつ

地図にない薄明を

傷だらけのネズミのやうに

すぎる、砂漠を

こわれた大砲のそばを

白旗とパンの間を

早い冬を

おそい春を、

すべてが美しくしくみえ

すばやく消へてゆく

なかば気を失ひ

夢心地になりながら

同じ歌をくりかへし

くりかへし

いつか始を忘れてしまひ

また同じ場所へかへつてくる、

いそいだとこらで

落ちつく先は變らないのだが

おれの前で呼んでゐる

∴ nothing. It is nothing. nothing .

おれはまだどこへも行つてゐない

おれは足踏みしてゐる

飢えがみたされたとき

もう一つの飢えに追ひかけられてゐた、

すぎ去つたものが向ふで

徒刑場の出口と入口をひらいてゐる、

後には

なかば埋れた骨をひきづつてくる

悔恨の銃口だ。

明方や夕暮の偶像も
政治家も もはや

意味はなく

新らしい地図もいまは空しい、

すべてが徒勞に始まり

徒勞に終る

君とは昨日握手したのに

今日は知らぬ顔をする

互にどこで落伍したのかわからない、

めい、めいがたつた一人の柵の中を

ひしめきながら廻つてゐた、

あゝゆきつくせない

墓場にも、

おれは撃つたれよう 撃つてくれ

おれの後の悔恨に

おれはむしろそんな背中の

傷口から

手つとりばやく脱出しよう。